

2012年9月28日
NPO 知的資源イニシアティブ

関係各位

Library of the Year 2012 優秀賞の決定および最終選考について

「Library of the Year(ライブラリー・オブ・ザ・イヤー)大賞・優秀賞」は、これからの日本の公共図書館のあり方を示唆する、先進的な活動を行っている機関(図書館に限らない)に対して、特定非営利活動法人 知的資源イニシアティブ(IRI)が毎年授与する賞です。

2012年は、IRIメンバーおよび外部推薦で寄せられた23施設・団体・サービスの中から、下記の4機関が優秀賞に選ばれ、大賞の最終選考対象となりました。

●CiNii

大学に限らず極めて広範に利用されるサービスとして、日本における学術コンテンツ発信の先進事例となっている点が評価されました。2011年11月にリニューアルされ、CiNii ArticlesとCiNii Booksの2本立て構成になったことを機会とし、今年の候補となりました。

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

国立情報学研究所 CiNii 担当

(CiNii Articles) <http://ci.nii.ac.jp/>

●save MLAK

東日本大震災における、博物館・美術館(M)、図書館(L)、文書館(A)、公民館(K)についての被災・救援情報を収集・提供する活動、支援者と受援者をつなぐ中間支援活動です。多数の有志の参加により幅広い活動として行われたことが、今後の災害支援の在り方のモデルになるとして評価されました。

<http://savemlak.jp/>

●ビブリオバトル

発表者による好きな本のプレゼンやディスカッションを行うイベントです。「人を通じて本を知る／本を通じて人を知る」というコンセプトを掲げた知的書評合戦として、全国大会が行われるほどの盛り上がりを見せています。継続的に行われていること、各地で開催されていることなども評価されました。

<http://www.bibliobattle.jp/>

(普及委員会) info@bibliobattle.jp

●三重県立図書館

県立図書館のあるべき姿をめざす「明日の県立図書館」をオープンな手法で策定し、進めていること、旬の企画を率先してプロデュースし、県内各地の公共図書館と共催する形で活動を展開していることなど、県立図書館が県内の図書館活動を積極的に推進している点が評価されました。

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234

<http://www.library.pref.mie.lg.jp/>

<最終選考について>

11月20日(火)午後1時～2時30分、パシフィコ横浜(横浜みなとみらい)にて、今回決定した優秀賞4機関を対象として、一般公開の最終選考会を開催いたします。最終選考会では、各機関についてIRIメンバーがプレゼンテーションを行い、ディスカッションを経て、審査員7名(選考会一般参加者票1を含む)による投票によって大賞を決定します。合わせて、大賞館及び優秀館の表彰式を行います。

この最終選考会は、パシフィコ横浜で開催される第14回図書館総合展(2012年11月20日～22日)の一環として行われます。入場無料です。

<Library of the Year について>

「Library of the Year」は、IRIの選考を担当するグループ(座長:昭和女子大学教授大串夏身)が中心となり、図書館など全国の知的情報資源に関わる機関を対象として授与する賞で、2006年に始まりました。

選考基準は、以下のとおりです。全国の公共図書館を総合的に評価して、ベストの図書館を決めるものではありません。

- ① 今後の公共図書館のあり方を示唆する先進的な活動を行なっている。
- ② 公立図書館に限らず、公開された図書館的活動をしている機関、団体、活動を対象とする。
- ③ 最近の1～3年間程度の活動を評価対象期間とする。

過去の受賞館は以下の通りです(詳しくはIRIホームページ内“Library of the Year”をご覧ください <http://www.iri-net.org/loy/>)。

第1回の“Library of the Year 2006”は、鳥取県立図書館が受賞しました。県全域を対象として、学校、企業、公的機関など様々な県内の機関と連携しながら、地域に関わって活動することにより、地域の役に立つ図書館をめざす、というこれからの図書館のあり方を示した点が評価されました。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=46587>

第2回の“Library of the Year 2007”は、愛荘町立愛知川図書館が受賞しました。図書館員がそれぞれの専門分野を持ち、町づくりに積極的に関わっている点が評価されました。

http://www.town.aisho.shiga.jp/pdf/koho/0801/ais_pr080112.pdf

第3回の“Library of the Year 2008”は、千代田区立千代田図書館が受賞しました。都心型図書館の新しいモデルとなることを意識し、図書館コンシェルジュ、古書店と連携した展示・販売仲介、電子図書貸出サービスなど数多くの新規サービスを展開し、地域の様々な機関との連携を進めたことが評価されました。

<http://www.city.chiyoda.tokyo.jp/service/00102/d0010297.html>

第4回の“Library of the Year 2009”は、大阪市立中央図書館が受賞しました。HPが四ヶ国語で作られるなど「開かれた図書館」を実践している点、データベースの数が多く利用が簡単であるなど、図書館でのデータベース利用のモデルを示している点が評価されました。

<http://www.oml.city.osaka.jp/>

第5回の“Library of the Year 2010”は、カーリルが受賞しました。全国5,000館を超える図書館・図書室蔵書の横断検索サービスとして、従来の図書館系のサイトWebサービスを凌駕している点、図書館界に留まらず大きな話題となった点が評価されました。

<http://calil.jp/>

第6回の“Library of the Year 2011”は、小布施町立図書館が受賞しました。「交流と創造を楽しむ文化の拠点」として、各種イベントの実施や地元の方100人のインタビューの電子書籍化を行うなど、小布施文化や地域活性化の拠点としての活動を進めている点が今後の地域の公共図書館の在り方の参考となる点が評価されました。

<http://www.machitoshoterrasow.com/loy2011.html>

■お問い合わせ先 IRI 事務局 info@iri-net.org
IRI ホームページ <http://www.iri-net.org/loy/>